
「新約のきよめ」

第13章 神とともに歩む

きよめは、状態であるだけでなく、歩みである

私たちがきよめの大路を歩むとき、かたわらには常にキリストがおられる。

そのときに、私たちはますます天的な思いを持つ者に成長し、ますます変貌し、ますますキリストに似た者になり、神の栄光に輝く者となる。

すべての聖さの秘密は、造り主との途切れることのない、曇りのない
交わり

キリストを見つめ続けるなら、キリストの像が私たちのたましいに映し込まれる。

キリストの臨在の中にあるなら、いやしい考えや卑劣なことばなどから守られ、常に最善を尽くさずにおれなくされる。

神とともに歩むことの意味—伴侶者

ともに歩むということは、その人がともにいるということ。

神の臨在が、現実のものとなる。

それは肉体的な感覚や、理性による認識ではなく、私たちのたましいへの顕現。

私たちが現実に触れ、肉声を聞くことができると思われる以上に確かなもの。
地上のどんな関係をも越える親密な交わりになる。

これはキリストの御霊によって、すべての人に同時に可能となっている。

この臨在は、すべての困難を解決し、キリスト者経験のすべての要求に答える。
この「ともにおられる伴侶者」こそ、「クリスチャン生活の秘訣中の秘訣」

神とともに歩むことの意味—交わり

交わりとは、心の結合があるということの意味している。

神さまと通じ合える仲になる。

人間的などんな友情にもまさる親密さが与えられる。

交わりというときには、語ることが大切。

しかし同時に、聞くことも忘れてはならない。

そのとき私たちは、神さまのみこころとみわざを見ることができる者とされる。

この交わりを保つために、私たちは忙しすぎてはならない。

「多くのクリスチャンの絶え間のない活動は、その霊的生命の墓場である。」

黙想する習慣、神との交わりのための時間を作ることが必要。

神とともに歩むことの意味—進歩

神は決して後退なさないもので、神とともに歩むなら、私たちも後退しない。

歩みとは、一步一步の規則正しい一定の動きによって、一步一步づつ継続的に前進すること。

前進は後退を防ぐ唯一の安全策。

御霊によって生まれ、御霊に満たされることは大きなことであるが、それは日々の進歩の必要を免除するものではない。

神とともに歩むことは、一步一步、みこころの中に歩むことを意味する。

神は一步一步づつを照らされる。全部を一気にではない。

今の瞬間を神のために生きる。その継続。

服従が、神の臨在を妨げないで保持する道。

その時徐々に、変貌が進み、やがて主のかたちの完成に至る。